令和４年度 京都大学大学院法学研究科法曹養成専攻（法科大学院）未修者特別選抜
口述試験（配点：200 点満点）

【出題趣旨】
午前に行われた口述試験では、ショシャナ・ズボフ〔著〕・野中香方子〔訳〕『監視資本主義：人類の未来を賭けた闘い』（東洋経済、2021 年）の一部を、午後に行われた口述試験では、苅谷剛彦「『自粛の氾濫』は社会に何を残すか」Voice 編集部編『変質する世界：ウィズコロナの経済と社会』（PHP 新書、2020 年）所収の一部を、それぞれ資料として提示し、これらを題材にした試問を行うとともに、出願書類に関する質疑も行い、出願者の論理的思考・判断力、理解・分析力及び表現力等を判定した。

【採点基準】
資料の内容が正確に理解できるか、論理的に物事を考えることができるか、問題を発見しそれを的確に分析する能力を有しているか、質疑への対応が適切にできるか等を踏まえ、総合的な評価を行った。